

【支部総会報告】

2025 年 兵庫支部 学術講演・支部総会報告

通信員 吉田隆人(大 6 回生)

2025 年度京都医療科学大学学友会兵庫支部総会は、2025 年 11 月 15 日(土)にホテルサンルートソプラ神戸にて開催されました。兵庫支部を中心に、全国から幅広い年代の会員が集まり、和やかな雰囲気の中で交流が深まりました。例年同様、学術講演会、総会、懇親会の三部構成で進行了しました。

学術講演会では、まず、株式会社島津製作所の竹内由紀子氏より「VISION SUPPORT がもたらす撮影現場の革新～カメラアプリによる新しい支援のかたち～」と題して情報提供が行われました。X 線撮影装置に関する最新のトピックスが紹介され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

続いて会員講演が行われました。最初に、兵庫県災害医療センターの辻居賢一氏(短 15 回生)より、「ミャンマー中部で発生した地震被害に対する国際緊急援助隊医療チーム」における活動報告がなされました。国際緊急援助の現場での医療支援体制や画像診断の役割、被災地で直面した課題などが詳しく紹介され、災害医療における放射線技師の貢献について改めて考えさせられる講演となりました。次に、神戸大学医学部附属病院の神澤匡数支部長(短 7 回生)より、「動態撮影の紹介と当院での使用経験」と題した講演が行われました。動態撮影の基礎的な考え方や実際の症例を通じてその有用性が示され、多くの参加者が熱心にメモを取る様子が見られました。最後に、京都大学医学部附属病院の吉田隆人(大 6 回生)より、「新人技師に伝えたい！手関節撮影の基本と上肢救急の対応力」と題して講演を行いました。手関節撮影における基本的なポジショニングや読影を意識した撮影のポイントに加え、救急現場で求められる迅速かつ的確な対応について解説されました。全ての講演を通じて活発な質疑応答が行われ、災害医療から一般撮影、教育まで幅広いテーマについて参加者同士で知見を共有する有意義な場となりました。

学術講演会の後に行われた総会では、榎本亮介氏(短 18 回生)の進行のもと、年間の支部活動報告および会計報告・監査報告が行われ、いずれも承認されました。また、錦成郎学友会会長(54 回生)からの挨拶や母校の近況報告があり、母校と学友会とのつながりを再確認するひとときとなりました。

総会終了後には懇親会が開催されました。世代や勤務先の垣根を越えた交流が行われ、近況報告や情報交換が活発に行われました。終始和やかな雰囲気の中で会は進行し、最後まで笑顔の絶えない有意義な時間となりました。

今回の総会と学術講演会は、多様な参加者が一堂に会し、放射線技術および関連分野に関する知見を深めるとともに、同窓生同士のネットワークを一層強める機会となりました。

次年度も多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

以上

